

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03163

研究課題名(和文) 統治思想としての&lt;オイコノミア&gt;：戦間期・社会経済思想の複合的研究

研究課題名(英文) Oeconomia as a Thought of Governance: Multi-faceted Investigation on social economic thoughts in the interwar period

研究代表者

中山 智香子(Nakayama, Chikako)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：10274680

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では経済活動が市場に関する数量だけでなく、統治つまり一国や国を超えた単位での社会や世界の統合、維持原理に支えられて成立していることを、大戦間期の社会・経済思想と現代のグローバル世界の問題系という複合的な観点から考察した。理論・思想分析としては大戦間期の統治を支えた地政学やエネルギー思想の歴史的な脈を整理し、これらとその後の思想的発展を考察した。また経済をめぐって統治問題が認識される場合の社会運動の重要性を踏まえ、世界システムの「周辺」とし新旧ヘゲモニー支配の構造の交差するアフリカ大陸における社会運動のありかたと琉球弧の事例を分析した結果、貨幣・金融と債務の問題の重要性が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：We have made research on the social and economic thoughts which not only concerns quantities related to markets but also qualities of the integration and maintenance of nation-states or transnational units. We have looked into several thoughts in the historical context of interwar period and their successive development until to our present time. Besides, we have analyzed the importance of social movements to transform the problematic governance on economic issues, especially with a case of the African Continent, as well as of Ryukyu Islands, where old and new hegemony have been demonstrating for each other and conflicting for domination. Having discussed these changing contemporary conditions with important activists for social movement as well as scholars and professionals on Oeconomia, we came to the conclusion that the monetary and financial markets and the factor of debt are of most importance.

研究分野：社会思想、経済思想

キーワード：オイコノミア 統治 大戦間期 ヤナマール カール・ポラニー 玉野井芳郎 地政学 エネルギー 論

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、2014年度までに行った複数回の基盤研究(B)(研究代表者、西谷修)における研究代表者、研究分担者をおもなメンバーとし、グローバル時代の戦争、経済、メディアに関する問題関心を引き継ぐものであった。しかし本研究では、統治や政治のシステムがグローバル世界の経済や社会に及ぼす影響により強く焦点をあて、経済領域にテーマを照準した。とりわけ世界大恐慌の時期の経験が現代世界にとって重要な参照軸となっている事態を重視し、大恐慌に取り組んだ思想的、知的営為に関して研究を深める必要を強く意識し、共同研究を開始した。

### 2. 研究の目的

本研究は、「自然」との物質代謝をつうじて人間「社会」が生産/再生産を繰り返す過程として経済活動を捉えつつ社会と自然双方の統治形態を追究した戦間期(1918~1940年)の思想の系譜を、学際的・複合的に再検討することを目的とした。二度の世界戦争と核の使用および株価の暴落と恐慌をつうじ、戦間期の経験は人類全体に「破局」の到来を予感させた。経済=オイコノミアをめぐる根源的な視座のもとでこの「破局」に抗し、人類の存続と再生の道を当時模索した思想の系譜は、グローバル・ガヴァナンスの権力効果が社会と自然をめぐる新たな「破局」との関連で争点化した今日の世界状況を前に、独創的視点を開示する。

本研究は、約一世紀前の思想を複数の学問領域における最先端の知見から再考することで、人間が営みうる新たな社会経済像の構築とその公表をめざした。

### 3. 研究の方法

テーマに関して各自の学問領域からのアプローチによる先行研究を整理し分析を行った研究を持ち寄り、研究会を重ねることによって学際的な広がりとし、そこに通底する共通の成果を共有することを試みた。また同時に国内外における社会運動や社会実践の担い手をシンポジウム、セミナーの場に招聘し、話を聞いたり議論を重ねたりすることで、理論的な関心にとどまらず現実の統治の場面での問題点を視野にいれながら検討を進めることを目指した。

国外に関しては、セネガルを中心として国境を超えた社会運動を実践するグループ「ヤナマール」をひきいるメンバーを招聘し、かれらの実践、方法としてのヒップホップについて実演を交えた説明の場をつくり、また多面的な議論を行った。一方、国内に関しては、国際政治的・経済的情勢から地政学的関心の焦点となっている琉球弧における水の統治の変化をテーマとし、これに関して現地で研究や実践を進める人びとを招聘して議論する機会をもった。

大戦間期に関する思想史研究については、とくにパトリック・ゲデス、フレデリック・ソディ(以上イギリス)、オットー・ノイラ

ート(ウィーン)に関する刊行、未刊行のアーカイヴ資料を調査・渉猟し、デジタル資料として整理を進めた。そしてこれに基づく分析を行い、その成果をまとめつつある。

### 4. 研究成果

共同研究を進めた2015年度から2017年度にかけては、世界の激動と度重なる災厄と紛争のなかで、グローバル世界における広義の経済(オイコノミア)の統治システムにも、さまざまな変動があったなかで、本研究ではとりわけ、世界システムにおけるアフリカの位置、新旧ヘゲモニーの摩擦におけるアメリカと中国の位置関係、国内的にはこれらと連動する琉球弧の位置のおよそ三点が焦点であることを明らかにし、20世紀の戦間期を基盤とする政治経済的統治がいかに臨界に達しているかを考察することができた。研究代表者と研究分担者複数名が所属する東京外国語大学での複数回のシンポジウムのほか、社会思想史学会で、専門家を交えたセッションとして企画し、報告することができた。

一方、戦間期から二〇世紀後半にかけてのオイコノミアの統治に関する思想史的分析について、今なお十分な知的蓄積がなされていないと思われる部分について、特にイギリス、オーストリアに関するアーカイヴ調査とこれに基づく理論的研究を進めた。その成果の一部は、ソウルで行われた国際ポラニー会議においてセッションを組織し、複数のペーパーとして発表することができた。

また調査の結果、統治と経済の交差部分に存在する、つまり統治概念なしには成立・維持されえない貨幣・金融(市場)という要素、またこれに関わる「債務」(負債)という要素が、現在そして今後の世界においてきわめて重要な役割を持つことが明らかになった。この点については、理論の進展のみならず社会に広く発信する映像などの重要性が認められたため、これを用いた実践も視野にいれて考察を行った。具体的には、負債に関するドキュメンタリー映画を製作した監督をフランスから招聘し、字幕をつけて映画を上映するセミナーを複数回行うとともに、テーマに関する踏み込んだ議論の機会をもつことができた。

ただし貨幣、金融に関してはさらなる共同研究で継続、展開を行う必要も確認された。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 19 件)

- Nakayama Chikako, 2018, 'Belated Acceptance of Problems: The Meaning of *Race, Nation, Class* in Japan', Bojadzijeve, M. and Klingan, K. (ed.), *Balibar/Wallerstein's "Race, Nation, Class": Rereading a Dialogue for Our*

- Times*, Hamburg: Argument Verlag, pp. 151-161.
- Tosa Hiroyuki, "Global Constitutional Order and the Deviant Other: Reflections on the Dualistic Nature of the ICC Process," *International Relations of the Asia Pacific*, vol.18(1), 2018, pp.45-70.(Doi: 10.093/irap/lex023).
- 桑田 学「気候工学とカタストロフィ」、吉永明弘・福永真弓(編著)『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年、125-140頁
- 中山 智香子「ジオポリティクスが媒介したヘゲモニーの推移:「アメリカの世紀」のあらわれ」(『現代思想』vol. 45-18, 2017.9.1. pp. 78-87)
- 土佐 弘之「地政学的言説のバックラッシュ:「閉じた世界」における不安と欲望の表出」(『現代思想』vol.45-18, 2017.9.1. pp. 60-70)
- 土佐 弘之「批判的安全保障研究における動物論的転回の意味 ポスト・ヒューマニティの倫理/政治学」『国際協力論集』vol.25(1), 2017年, 65-79頁
- 桑田 学「人新世と気候工学」『現代思想』第45巻、第22号、2017年、122-130頁
- ⑧ 真島一郎「力の翻訳 - 人類学と初期資本主義」渡辺公三・石田智恵・富田敬大 編『異貌の同時代 - 人類・学・の外へ』以文社、2017年、353-391頁。
- ⑨ 桑田学「オットー・ノイラートにおける物理主義と経済科学」『立教経済学雑誌』70(3), 2017年、pp. 1-23.
- 西谷修「トランプと仕切りのない世界」『世界』891号、pp.112-117.2017.3.
- 土佐弘之「システム表象としてのスペクター(右翼ポピュリズム)」『現代思想』45(2), pp. 190-198.2017.1.
- 土佐弘之「R2P のメルトダウン: UNSC1973 前後の責任をめぐる政治」『国際協力論集』24(2), pp. 115 - 128 . 2017.1 .
- 西谷修「ハイデガーをなぜ読むのか」『Heidegger Forum』10, pp. 66-71.2016 .
- 中山智香子「認知資本主義と統治: 貨幣が国家を離れるとき」山本泰三編『認知

- 資本主義』ナカニシヤ出版、pp. 241-256. 2016 . 4 .
- 中山智香子「金融独裁を止める市民的不服従・非暴力の牙」『週刊金曜日』1070、pp. 18-19. 2016 . 1 .
- 真島一郎「非暴力の牙」『現代思想』44(2), pp. 129-137.2016.1 .
- 西谷修「開かれる奈落への道」『社会文学』42、pp. 2-8.2015.8 .
- Tosa Hiroyuki 'The Failed Nuclear Risk Governance: Reflections on the Boundary between Misfortune and Injustice in the Case of Fukushima Daiichi Nuclear Disaster,' "ProtoSociology", 32, pp. 126-149. 2015 .
- 桑田学「フレデリック・ソディと<破局>の経済思想: 原子力・気候工学・金融化」『現代思想』43(13), pp. 186-199.2015.9 .

[学会発表](計 9件)

- Nakayama Chikako, 'An Investigation of ecological potentiality of Polanyi's thought: Tamanoi and Illich as Polanyian successors' (the 14th International Karl Polanyi Conference in Seoul, South Korea, 12-14, Oct. 2017)
- M. Kuwata and O. Nishitani, "Towards a 'Philosophy of Soil': A Critique of Industrial Civilization in the History of Economic Thought of the Late 20th Century", 14th International Karl Polanyi Conference "The Great Transformation" & Contemporary Crises", Karl Polanyi Institute Asia (KPIA), Seoul, South Korea, October 12-14, 2017
- 桑田学「気候変動問題をめぐる社会的合理性と倫理」(科学技術社会論学会年次研究大会(北海道大学、2016年11月6日)
- 中山智香子「21世紀の世界システム論(セッション企画と報告)」社会思想史学会第41回大会(中央大学、2016年10月30日)
- 中山智香子「グローバル経済世界と市民的不服従の位置」日本平和学会大会(琉球大学、2015年11月28日)
- 真島一郎「西アフリカと東アジア: 映し

合う破局と主権の鏡」日本平和学会大会  
(琉球大学、2015年11月28日)

Nakayama Chikako, 'Imposed Peace as  
the reemergence of the post-war  
period: consideration of peace in a  
complex society by Karl Polanyi,  
International Karl Polanyi  
Association, (New York, the 20<sup>th</sup> of  
November, 2015, invited)

中山智香子「「経済的に合理的」な平和  
を考える」日本倫理学会大会(熊本大学、  
2015年10月3日、招待)

Kuwata Manabu, 'Historical contexts  
of Frederic Soddy's biophysical  
economics; the First World War and  
'the inversion of science', The 4<sup>th</sup>  
ESHET-JSHET Joint Conference, (Otaru  
University of Commerce, the 11<sup>th</sup>-  
September, 2015)

〔図書〕(計 2 件)

西谷修『アメリカ：異形の制度空間』講  
談社、2016年、272頁。

土佐弘之『境界と暴力の政治学』岩波書  
店、2016年、304頁。

〔学会・シンポジウム開催〕(計1件)

Bear the fangs of non-violence  
(2015年11月23日(祝)於東京外国語  
大学)

〔翻訳〕(計1件)

①ヴュー・サヴァネ、バイ・マケベ・サル著  
『ヤナマール - セネガルの民衆が立ち上  
るとき』(真島一郎 監訳、中尾沙季子 訳)  
勁草書房、2017年、xxxiv+167p.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中山 智香子 (Nakayama, Chikako)  
東京外国語大学大学院・総合国際学研究院・  
教授  
研究者番号：10274680

### (2) 研究分担者

真島 一郎 (Majima Ichiro)  
東京外国語大学大学院・総合国際学研究院・  
教授  
研究者番号：10251563

西谷 修 (Nishitani Osamu)  
東京外国語大学・名誉教授  
研究者番号：20189286

桑田 学 (Kuwata Manabu)  
福山市立大学・都市経営学部・准教授  
研究者番号：20745707

土佐 弘之 (Tosa Hiroyuki)  
神戸大学大学院・国際協力研究科・教授